

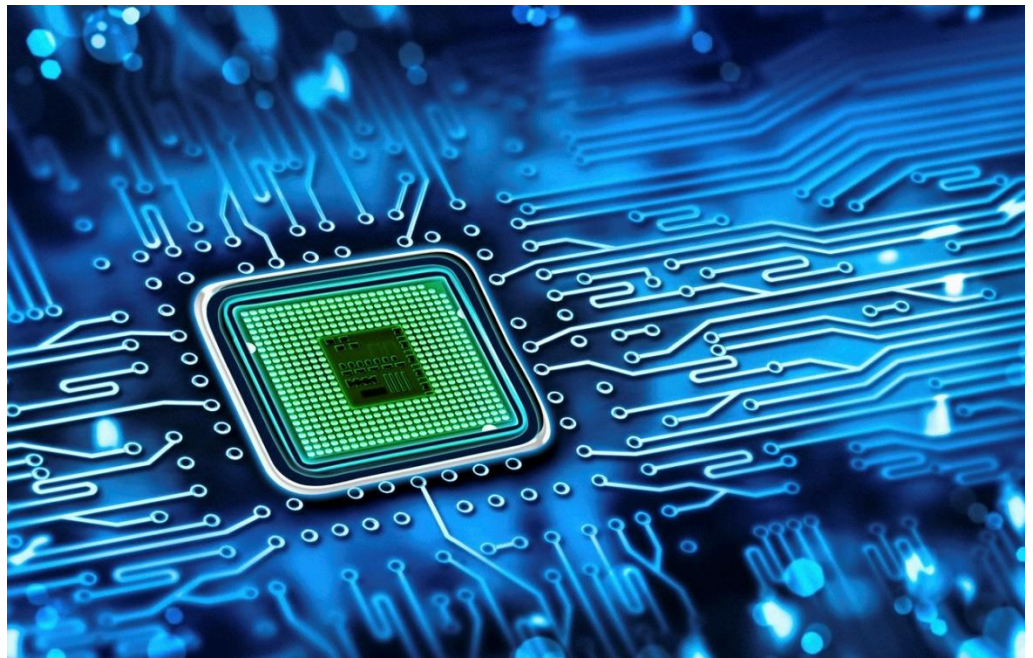
## ロボテック戦略月次レター（2022年1月の振り返り）

# 自動化関連企業、決算は堅調

グロース株からバリュー株へローテーション受け、株価は下落するも良好なファンダメンタルズは変わらず

1月の世界株式市場（MSCI ACWI、米ドルベース）は昨年10-12月期の上昇トレンドから一転し、大幅な下落となりました。

インフレ圧力が強まる中、投資家の関心は、各国中央銀行のこれまでの想定よりも早い利上げ見通しに集中し、市場ではグロース株から



バリュー株への急激なローテーションが起きました。当戦略の投資対象ではないエネルギーセクターなどが市場全体を上回るパフォーマンスとなり、ITセクターなどは市場全体を下回るパフォーマンスとなりました。

株式市場の動向を受け、半導体関連銘柄の株価も大きく下落しましたが、直近の決算内容は引き続き概ね堅調です。

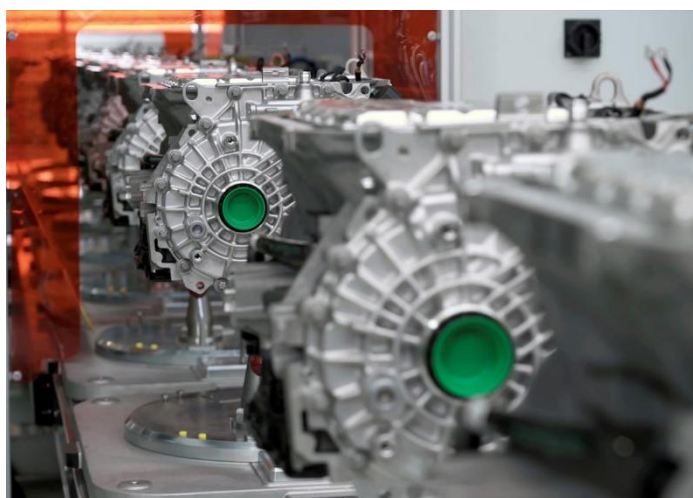
株式市場では月を通して値動きの荒い展開となり、利益を上げていない企業や株価が割高に評価されている企業などが特に大幅な下落を記録しました。半導体関連銘柄など、直近パフォーマンスのよかった銘柄なども利益確定の売りで大きく株価が下落しました。

当月のロボテック戦略も、市場全体と同様に大幅な下落となりました。米国をはじめ保有銘柄の株価が全般的に下落したことがマイナス寄与となりました。当月は米国のテラダイン、シリコン・ラボラトリーズ、アドバンスト・マイクロ・デバイス（AMD）など半導体関連銘柄がマイナス寄与となりました。

なお、当戦略の組入銘柄の大半は2022年の黒字業績が見込まれており、ファンダメンタルズも引き続き良好です。

## 決算内容は堅調、市場も徐々に落ち着き

大手テクノロジー企業などが1月後半から2月初めにかけて行った決算発表は堅調な内容となっており、市場も落ち着きを取り戻つつあります。AMDは人口知能（AI）アプリケーションに用いられるハイパフ



世界でEV生産が拡大しており、モーター製造などで自動化機器の導入が進んでいます。

フォーマンスコンピューティング向け半導体、シリコン・ラボラトリーズは幅広いエンドユーザーから需要のあるIoT（モノのインターネット）向け半導体、テキサス・インスツルメンツは産業および自動車向けアプリケーション用半導体について、それぞれ旺盛な需要があることを報告しています。

この中では、テラダインの決算は失望を呼ぶものとなりました。半導体試験装置および自動化機器を手掛ける同社は当初、大手スマートフォン・メーカーから2022年の受注を見込んでいましたが、2023年にずれ込む可能性を示唆しました。また、サプライチェーンの問題も続いており、一部の事業

でコストが増加していることについても言及しました。これらのコスト増加圧力は年後半にかけて徐々に緩和されるものと期待されます。

日本の自動化関連銘柄は強弱入り混じる決算となりました。キーエンスは1月に株価が下落しましたが、2月初めの決算発表では最高益を記録しました。その他のメーカーはサプライチェーンの問題により一時的な収益圧迫を報告しています。明るいニュースとしては、産業用ロボット最大手のファナックが電気自動車（EV）や電子機器関連産業からの堅調な需要に後押しされ高水準の受注を報告したことが挙げられます。

## EV関連で自動化などの設備投資加速へ

なお、EV関連では、世界的に活発なEV向け設備投資により、電池の組み立て工程などでのロボット導入増を受け、サーボモーターの安川電機は直近の四半期受注で過去最高を更新しました。日本電産は、EV用駆動モジュール（モーター、減速機、インバーターなどを一体化した製品）「イーアクスル」を採用したEVの販売台数が昨年11月に2万台を突破し、追加投資をこのほど発表しました。

また、1月上旬に開催された米テクノロジー見本市「CES」では、米ゼネラル・モーターズ（GM）が主力車種のEV化を表明し、ソニーグループもEVへの本格参入の検討を発表しました。さらに、日産自動車、仏ルノー、三菱自動車の3社連合は、2026年度までに230億ユーロ（約3兆円）におよぶEV関連の設備投資を行うと1月に発表しました。EV関連では、自動化などの設備投資の一段の加速が進むと見えています。

## 継続する労働力不足や賃金上昇圧力が自動化促進

2022年に入っても、インフレ圧力やサプライチェーンの混乱は引き続き企業の経営に影響を与えており、一部の地域では労働力不足が賃金上昇圧力となっています。多くの業種、中でも製造業や倉庫関連においては、労働力不足を解決する一手として自動化を導入する機会を提供しており、この問題が続く限り自動化の需要を高める原動力となると見えています。この点については、当戦略のポートフォリオ・マネージャーであるトム・ライリーの最近の記事（「[自動化関連セクターの力強い成長は持続へ](#)」）をご覧ください。

## ポートフォリオの動向

当月は、市場が下落した局面を捉えて半導体のウルフスピード、3Dセンサーを提供するルメンタム・ホールディングスなど、多くの組入銘柄の買い増しを行いました。画像処理半導体を製造するアンバレラの買い増しも行いました。同銘柄については、12月にそれまでの堅調なパフォーマンスを受けて利益確定のため一部売却を行いました。今回の下げ相場で魅力的な株価水準で買い戻すことができました。

ヘルスケア・セクターでは、臨床検査薬や診断機器を製造するクイデルおよび関節ロボット手術機器を製造するジンマー・バイオメット・ホールディングスを全額売却した一方、1月に特に株価が下落した歯科矯正器具メーカーのアライン・テクノロジーおよびロボット手術最大手のインテュイティブ・サージカルについては買い増しを行いました。

ディスクレーマー

### アクサIMについて

アクサ・インベストメント・マネージャーズ（アクサIM）は責任ある資産運用会社であり、長期的なアクティブ運用を行うことで、お客様、従業員、そして世界の繁栄を支援しています。当社の確信度の高い運用アプローチにより、代替資産クラスおよび伝統的資産クラス全般で最も良好な投資機会と考えられるものを追求しています。2021年9月末時点で約8,790億ユーロの運用資産残高を有しています。

アクサIMは、グリーン、社会、サステナブル市場における先進的な投資家であり、2021年9月時点で5,770億ユーロにおよぶESG（環境、社会、ガバナンス）統合済みのサステナブルおよびインパクト資産を運用しています。当社は、2050年までに、

全運用資産における温室効果ガス排出のネットゼロ達成をコミットしており、株式銘柄選択から企業行動や文化に至る当社の事業にESG原則が組み込まれています。当社の目標は、社会と環境に有意義な変化をもたらしつつ、お客様に真に価値のある責任投資ソリューションをご提供することです。

2021年6月末時点で、アクサIMは20カ国26拠点において2,488名余の従業員を擁し、グローバルな事業を展開しています。アクサIMは、世界最大級の保険および資産運用グループであるアクサ・グループの一員です。

#### 投資リスク及び費用について

当社が提供する戦略は、主に有価証券への投資を行いますが、当該有価証券の価格の下落により、投資元本を割り込む恐れがあります。また、外貨建資産に投資する場合には、為替の変動によっては投資元本を割り込む恐れがあります。したがって、お客様の投資元本は保証されているものではなく、運用の結果生じた利益及び損失はすべてお客様に帰属します。

また、当社の投資運用業務に係る報酬額およびその他費用は、お客様の運用資産の額や運用戦略（方針）等によって異なりますので、その合計額を表示することはできません。また、運用資産において行う有価証券等の取引に伴う売買手数料等はおお客様の負担となります。

#### 【ご留意事項】

当資料は、アクサ・インベストメント・マネージャーズの情報提供に基づき、アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社が翻訳・作成した資料です。

当資料は、情報提供を目的としたものであり、特定の有価証券その他の投資商品についての投資の勧誘や売買の推奨を目的としたものではありません。

当資料は、信頼できると判断された情報等をもとに作成しておりますが、正確性、完全性を保証するものではありません。当資料の内容は、作成日時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。当資料に記載された運用実績等に関するグラフ・数値等はあくまでも過去の情報であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

当資料を事前の了承なく複製または配布等を行わないようにお願いします。

アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社

金融商品取引業者 登録番号: 関東財務局長（金商）第16号

加入協会: 一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人投資信託協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会、日本証券業協会

Ref-24137